

モンゴル語近代語彙登場の母体——『蒙話報』誌（五）

——近代語彙の抽出・分類及び存廃の時代別考察——

フフバートル

一、モンゴル語近代語彙の抽出

1.1 「近代語彙」についての視点

時代区分の用語としての「近代」は、国により、考え方によりそこに区分される歴史時代が異なる。それが政治的に決まることもあるので、モンゴルのような異なる国家に属する民族は同一の民族であっても近代史の時代区分が異なる。この理由によるものばかりではないが、この研究はモンゴル民族、あるいはモンゴル語にとって「近代」に区分される時代に登場したすべての語彙を研究対象にするものではない。ここでは今までのモンゴル語研究に欠けていたモンゴル語の近代化についての研究、とりわけ、語彙の近代化という視点からの研究を行なう。これまでのモンゴル語研究では語構成など、語彙の内在的発展についての考察が重んじられていたが、モンゴル社会に大変革が起きた 20 世紀前半に遊牧民のことばであったモンゴル語がアジアの周辺国や民族から押し寄せられてきた近代化の波に対し、どう臨み、どう応えてきたのか、そして、自らをどう近代化してきたのか、モンゴル語の変化や発展に大きな影響を与えた外的要因について、視点を変えて研究することがすでに求められている。具体的には、おびただしい近代的な概念をモンゴル語がいかに取り入れたかというプロセスについての研究であるが、こうした研究はモンゴル語だけの研究にとどまらず、東アジア諸言語間の言語接触、語彙交流史の研究においても有益であると思われる。

このように、ここではモンゴル語の「近代語彙」をある特定の時代の語彙という時代区分の意味ではなく、西洋の近代文化、社会構造、科学技術、工業生産などと関係のある語彙、つまり、「近代化の語彙」、「近代化がもたらした語彙」という意味で使う。

近代的な意味や概念を表す語彙を西洋語から翻訳すること自体がアジア的な現象なので、東アジア漢字圏の諸国、とりわけ日本の言語学界にはその出典や漢字圏国との共通の語彙などを考察する研究分野があり、その研究対象である語彙のことを日本語では「近代訳語」、「翻訳語」、「新語」、「漢訳語」、「新漢語」、「近代漢語」、「近代語彙」、または「文明のことば」、「明治生まれの日本語」など、取り扱い方や考え方によってさまざまな名称を与えて呼んできたが、学術用語として定着している名称はまだ存在しないようだ。

一方、中国では中国語に導入された数多くの日本製漢字近代語彙（和製漢語）を外来語として扱ってきたが、中国語と同じ漢字を使っていることから、とくに中国語の古典にある語彙については、それらの単語が近代的な概念を表すように意味変化しているにもかかわらず、外来語、つまり、日本語として認めたがらない傾向もある。中国語における日本製の漢字近代語彙は、双方が共通の表意文字をもっているからこそ成立が可能な「語形借用語」(graphic loan) に当たり、語彙の意味ばかりでなく、語彙の書写形式も借用されている。このような中国語における日本語からの graphic loan のこ

とを研究者によっては中国語で「漢字借詞」(漢字借用語)と訳している¹。

このように、漢字圏の諸言語では近代語彙が漢字や漢字音と結びついていることが多いため、上記の多くの名称に「漢」は付き物だったが、漢語から翻訳され、モンゴル語となった意識語であるモンゴル語近代語彙のばあいは、すでに漢字や漢字音の殻が剥かれているため、ここでは漢語や漢字とは関係なく、社会的、歴史的背景から語彙の意味や概念を重視して「近代語彙」という名称を選ぶことにしたい。これが「近代語彙」を選んだもう一つの理由である。

1.2 モンゴル語近代語彙の弁別

明治時代の日本で、西洋の新しい概念を日本語に翻訳するのに、漢籍の中の古い漢語が多く使われたことはよく知られている²。モンゴル語でも、音韻や字の綴りが同じであっても、近代以前と近代以降とでは意味が異なる単語が少なからずある。近代的な概念を表すのに古くからあった単語が使われていたとしても、現在の人々はそれを古い意味ではなく、近代的な意味で理解し、使っている。したがって、近代語彙の弁別にあたり重要なのは、その語の外形の新旧ではなく、その語の表す意味や概念が近代的かどうかの判断であり、もしそれが近代的であれば、それを表すのに古くからあった語が使われていたとしてもその単語を近代語彙とみななければならない。

本研究ではモンゴル語の近代語彙を弁別する基本的な姿勢として、中国語との関連でまず次の諸点に注目しなければならないと考えている。

1.2.1 近代以前からあったモンゴル語が中国語近代語彙の訳語として使われている。

近代以前からあったモンゴル語かどうかは、その語が清朝末期までのモンゴル語辞書³に掲載されているかどうかにより一応の判断ができる。ここに掲げる近代以前のモンゴル語と近代以前の中国語の例は『御製五體清文鑑』⁴によるものである。「日本語の意味」は「中国語近代語彙」の訳である。

例：

近代以前のモンゴル語	近代以前の中国語	中国語近代語彙	日本語の意味
oyutan	生員	大学生	大学生
sekegeten	童生	知識分子	知識人
erdemten	賢者	学者	学者
surɣaɣuli	教(三教の)	学校	学校
qauli	例	法律	法律
ün-e	租子	価格	値段
üiledbüri	工程	工場	工場
kičiyel	工夫	課	授業

1.2.2 中国語では近代以前(A)と近代以降(B)の異なる意味の語彙に同じ漢字語が使われているけれども、モンゴル語ではそれぞれ意味の異なる訳語があてられている。

日本語訳は近代以前のモンゴル語の意味を直訳したものであるが、近代以降の中国語(B)を日本語に訳したばあいは、漢字が中国語とほぼ同じなので、次の表では見易さを考えて英語訳を与える。そして、また、モンゴル語近代語彙の例は内モンゴル自治区をはじめとする中国領内で話されているモンゴル語に基づくものである。

例：

中国語	日本語訳・英語訳	近代以前のモンゴル語訳	モンゴル語近代語彙
博士 A	勉強した役人	surulčaγsan tūsimeḷ	—————
博士 B	doctor	—————	doktor
教授 A	教える役人	surγaγči tūsimeḷ	—————
教授 B	professor	—————	professor
学生 A	教わるための子供	surγaγuli-yin keüked	—————
学生 B	student	—————	suruγči
学院 A	教えるための役所	surγaγuli-yin yamun	—————
学院 B	college	—————	degedü surγaγuli
助教 A	助けて教える役人	tusalan surγaγči tūsimeḷ	—————
助教 B	assistant	—————	tusalaγči baγsi

ここで中国語のばあいは近代以前 (A) と近代以降 (B) は同じ漢字からなる語で、近代的な意味を表すのに古くからあった漢字語がそのまま使われている。それは多くのばあい、近代語彙として導入された日本語がそうになっているからだ。

これに対し、モンゴル語のばあいは、上表のように、近代以前の中国語 (A) に当たる訳語と近代以降の中国語 (B) に当たる訳語が別々になっている。空欄になっていることからわかるように、近代以前の中国語 (A) の意味にはモンゴル語近代語彙が当たらず、モンゴル語近代語彙は近代以降の中国語 (B) の意味にしか当たっていない。逆に、近代以降の中国語 (B) の意味には近代以前のモンゴル語は当たらず、近代以前のモンゴル語は近代以前の中国語 (A) の意味にしか当たっていない。

モンゴル語に見られるこのような意味の違いは、同一の漢字語の語形に隠された近代以前の中国語と近代以降の中国語の意味上の大きな違いを示唆するものでもある。

1. 2. 3 近代以前からあったモンゴル語が近代語彙の意味で使われているという点では前述 1. 2. 1 と重なるが、意味からも近代語彙であると判断されにくい語彙が多い。

この類のモンゴル語近代語彙はいずれも状況が複雑で、当該語が外国語の意味や概念の訳語から定着しているものかどうかについて通時的に考察を行なうことが必要であり、また、訳語であるばあいはモンゴル語よりも原語自体が近代的意味や概念を表すものであるかを見極めなければならないが、モンゴル語に導入された早期の近代語彙かどうかを究明するという意味では、原語が中国語か日本語の漢字語であるという前提で考察をせざるをえない。例えば、モンゴル語の šasin (宗教) は 18 世紀に編纂されたモンゴル語辞書『欽定蒙文彙書』などにも載っている。そして、šasin がもつ「宗教」の意味や概念は、普通近代的と思われなことから、この単語が近代語彙であるかどうかは疑問になる。しかし、『欽定蒙文彙書』では šasin に当たる中国語は「法度」であり、「宗教」は載っていない。中国語の「宗教」は日本語から導入された近代語彙であることは知られているが、中国語の文献に登場するのは 1890 年である。高名凱、劉正焱 (1958) によれば、「宗教」は、「純粹日本語を来源とする現代中国語の外来語」に属する。たしかに、「宗教」は日本製漢字近代語彙に生まれ変わった漢籍語彙集の『新名詞訓纂』⁵⁾には載っていない。日本語の「宗教」は英語の religion の訳語として生まれたが、日本製漢字近代語彙を好まなかったことで知られる嚴復は仏教用語である「教宗」を使って

いたという6。

このように、šasin は18世紀当時の意味のままではなく、「宗教」(religion) の概念として使われている現在、この単語の近代語彙としての変遷プロセスを中国語の「宗教」との関係で調べてみる必要がでてくる。

以上見てきたように、早期のモンゴル語近代語彙の弁別においては、中国語、またはその背景にある日本語といった漢字語との関係を前提に考えるのが現段階におけるモンゴル語近代語彙研究の欠かせない方法である。それは、19世紀末、20世紀初頭にモンゴルが置かれていた政治的情勢や歴史的背景によるものであり、実際、現段階ではモンゴル語近代語彙の形成に強い影響を及ぼしたと考えるのに値する十分な資料が、本研究の対象である『蒙話報』のような漢語からの訳語を除いてほかに見当たらないからである。

二、『蒙話報』のモンゴル語近代語彙

2.1 『蒙話報』の漢字語の見出し語

本研究では『蒙話報』誌がそれまでに見られなかったおびただしいモンゴル語訳語を中国語の近代語彙から翻訳することによって産み出したと考え、それがモンゴル語近代語彙の形成において基盤になるような重要な役割を果たしたという意味で、同誌を「モンゴル語近代語彙登場の母体」と位置付けたが、ここでは『蒙話報』誌の各冊に含まれる個々の単語を分析し、近代語彙と判断される単語を抽出する作業を行なわなければならない。これは現在利用できる『蒙話報』誌全23冊の総計1755ページ(毎期平均76.3ページ)における語彙全体を扱うことになるので、資料的価値を十分認めなければ軽く手を付けられる作業ではなかった。

ここで行なう『蒙話報』誌からモンゴル語近代語彙を抽出する作業は、基本的に近代語彙としての中国語にどのようなモンゴル語を当てていたかを調べることである。そのためにはまず「近代語彙としての中国語」の見出し語を引き出さなければならないが、これはモンゴル語の語彙を扱うこの研究ではとても手に負えない作業である。

近代の中国語では外国語、特に和製漢語の影響により二字複合語が大量に現れたことは事実なので、中国語近代語彙の普遍的な特徴として二字複合語を見逃すことはできない。ここでは中国語の見出し語を抽出するにあたり、まず二字複合語を念頭におきながら、その二音節の単語が『蒙話報』誌刊行以前モンゴル語に翻訳されたことがあったかどうか注目し、それを確認していきたい。しかし、『蒙話報』誌が刊行される以前、つまり清朝時代の辞書には「満蒙」(満洲語からモンゴル語)はあっても、「漢蒙」(中国語からモンゴル語)はなく、後述するように、1917年に「漢蒙大辞典」として登場した『蒙漢合璧五方元音』ですら近代的な二字複合語はほとんど掲載されず、『蒙話報』の二字複合語と一致する単語はわずか21語にすぎない。

結局、近代的な二字複合語の中国語がモンゴル語でどう翻訳されていたかを確認できる十分な資料が存在せず、見出し語の判断は基本的に二字複合語を原則とし、中国語と日本語の近代語彙資料⁷及び『蒙話報』以降のモンゴル語の資料⁸を参照しつつ、近代的と判断される語彙はなるべく落とさずデータに収録するようにした。その結果、収録された中国語の見出し語は合計844語である。

2.2 見出し語の分野別分類

『蒙話報』誌の23冊に含まれる中国語の見出し語844語をさらに分野別に分類すれば次のようになる。

政治161語、経済99語、人文125語、自然62語、教育59語、社会124語、その他214語である。

なお、分野別分類の枠組みや方法は沈国威(1994)を手本にしたものであるが、沈国威の分類は高名凱、劉正焱(1958)の25の分野を九つの分野にまとめてある。ここでは分野別の語彙数のバランス関係などからさらにまとめて分野の数をさらに減らした。沈国威が指摘しているように、意味による語彙の分類は「難しいうえに恣意性が高い」ものである⁹⁾。そういう意味でここでの分類は、意味論的に厳密に行なったものではなく、あくまでも語彙の整理、分析の便宜のために行なった恣意性の高い分類であり、語彙の配列も便宜のために、中国語の見出し語を漢字音読みで調べられるよう日本語の五十音図順にした。漢字は基本的に当時使われていた中国語の繁体字にした。

●政治(政治、法律、外交、軍事) 161語

愛国 委員 維新 海軍 外交 外交官 外国 外務部 外洋 擴張 各国 陷害 干涉
官制 官兵 官吏 議案 議員 議院 貴族 議論 境界 疆界 強権 愚弄 軍事 軍務
軍隊 訓練 警告 警察 繼承 刑律 権限 憲法 権力 護照 顧問 公権 公衆 抗争
皇族 公德 候補 公文 公民 公例 号令 国勢 国防 国民 国家 国会 国境 炸彈
参議員 自衛 時事 時勢 自治 釋放 自由 守衛 宗旨 集会 住民 主義 主權 首領
衝突 承認 植民 植民地 自立 新政 侵占 審判 臣民 人民 侵略 崇拜 政策 政治
政体 政党 政府 声明 折衷 選舉 全權 全国 前進 全世界 專制 戦争 宣戰 先峰
宣布 總督 總理 組織 属国 大綱 妥協 大臣 大統領 代表 太平 逮捕 彈壓 團結
治安 中央 抵抗 帝国 撤回 統一 同志 統制 統治 同胞 独立 内外 内閣 内地
馬隊 叛逆 万国 版圖 藩邦 秘謀 復讐 復興 武力 兵器 兵隊 平和 邊界 邊境
邊疆 邊防 放棄 封建 法政 報復 法律 法令 保衛 保護 保守 防備 民主 滅亡
蒙務 野心 利害 陸軍 立憲 領事 領土 和平

●経済(経済、生産、経済・生産活動、交通、技術に関する用語) 99語

運輸 營業 驛長 海関 開設 開通 開發 開辦 開放 火車 火輪 機器 汽車 漁業
銀行 經營 經商 經費 建設 建築 航海 鑛業 航行 耕作 礦産 公司 礦政 交通
工程 購買 礦物 工廠 股本 財源 財産 財政 財力 産業 事業 實業 紙幣 資本
資本家 車站 修建 修築 商業 牲畜 商務 進口 石油 設計 設置 設立 生計 生産
製造 稅務 創業 造幣 畜牧 暢鎖 通商 定価 定購 停車場 鉄道 鐵路 電車(無軌)
電信 電線 電燈 電報 電話 土地 統計 董事 特産 入股 農産 納稅 買賣 破産
飛行器 飛行船 飛艇 費用 物価 物産 貿易 報酬 牧場 有益 遊牧 利益 利息
流通 林業 輪船

●人文(文学、芸術、音楽、宗教など人文科学関係の用語) 125語

意義 演技 演説 科学 華僑 学者 學術 学説 学問 科目 漢族 技術 教育 教会
近世 藝術 血統 原因 研究 言語 原始 見識 現象 原理 工藝 考查 考察 国語

固有 才能 作用 参考 参照 視察 自然 思想 字典 辞典 慈悲 社会 習慣 宗教
 宗教家 宗族 主義 儒教 主人翁 種族 主體 手段 商人 書記 進化 神学 信教
 信仰 人工 人種 心理 真理 人類 声学 世紀 性質 精神 生命 世界 石印 前途
 草案 僧侶 総論 測繪 題目 探究 探查 知識 地圖 中国語 中世紀 調査 緒言
 地理 偵探 哲学 動詞 動植物 動物 道理 内容 農学 博士 發刊 發表 發明 評論
 附録 風琴 風俗 風土 文化 文学 文官 文物 文明 分類 編輯 佛教 報紙 方言
 本旨 民族 無限 迷信 目錄 文字 問題 理学 理由 理論 歴史 労働 論說 論叢
 論理

●自然 (物理、化学、数学、地理学など自然科学分野の用語) 62 語

位置 一帯 宇宙 運動 沿岸 温帯 温度 海岸線 海洋 化学 火力 寒帯 完備 氣候
 距離 空氣 群島 形状 形態 光学 工学 工業 沙漠 山脈 水界 水分 赤道 大氣
 體質 大陸 知覚 地球 地形 地理学 電学 天氣 天体 天然 度 土質 土壤 度数
 土性 内陸 南緯 肉体 熱帯 農学家 農業 繁殖 半島 肥料 風力 物理 分離 分量
 平原 暴風 無線 野生 陸界 陸地

●教育 (教育、医療衛生、体育) 59 語

位 (算数のけた) 医院 印字 衛生 課 (第~課) 学業 加減 学校 学士 学生 学堂
 学務 学館 加法 課本 關節 寄宿舍 及格 教科書 教授 教説 教導 教練 経科
 啓發 減 (算数) 合格 算学 算数 試験 識字 私徳 出版 昇学 乗除 初等 小学校
 招生 生育 成績 整数 生徒 卒業 体育 第一課 大学 談話 智育 道德 德育
 發育 發行 畢業 舞踊 聘請 優等生 養成 留学 練習

●社会 124 語

案件 意見 田舎 影響 開化 開会 改革 会議 会晤 会合 改良 家族 合併 管理
 關係 機関 規矩 規則 紀念 規模 義務 規律 救済 教員 教訓 居民 競争 協約
 協力 計劃 輕蔑 劇園 劇場 検査 交易 公共 廣告 交際 公事 交渉 合同 公認
 個人 戸口 困窮 根本 採用 採納 刷印 賛成 資格 事件 支持 執行 習慣 主任
 条款 消息 章程 条約 奨励 職業 職務 処分 人材 信息 新聞 進歩 推行 推廣
 生活 制限 制度 整頓 政務 責任 施行 遵守 村落 待遇 退職 体制 单位 団体
 地位 秩序 地歩 地方 通告 通例 提唱 程度 伝播 統一的 動物園 討論 都会
 都市 農民 發達 頒行 頒發 頒布 標準 貧弱 貧民 風氣 普及 布告 扶助 文職
 閉会 平民 編成 報告 法則 朋友 謀生 發端 名誉 郵政 要聞 要務 聯合

●その他 214 語

愛情 握手 压抑 意思 異常 一律 飲食 永遠 永久 横断 核訂 貨物 活發 果断
 觀客 歡迎 感激 感情 関心 貫通 監督 機会 氣球 危險 期限 記載 記者 犠牲
 基礎 喫煙 基本 共計 居住 舉動 舉辦 禁止 苦情 苦難 (艱苦) 工夫 区分 區別
 携帶 結果 決定 現行 顯著 原料 公園 後悔 光景 交代 高等 行動 幸福 行李
 効力 誤会 誤解 鼓掌 鼓舞 鼓励 混雜 痕跡 困難 猜疑 錯誤 左右 參觀 残酷

志氣 時期 事故 時候 時刻 事情 視線 時代 實行 實際 執照 兒童 住所 修訂
 周到 收服 重要 収録 儒家 出差 出入 趣味 種類 順序 詢問 滋養 掌握 乘客
 詳細 稱賛 常識 照像 城鎮 鐘表 証明 消滅 常用 將來 擾乱 照料 商量 食料
 親近 振興 紳士 新鮮 親族 慎重 親密 人力 森林 衰弱 性格 請求 成功 成效
 精通 清理 成立 精力 勢力 西曆 説明 絶望 全体 相信 聡明 粗暴 尊敬 体会
 対照 脱離 探險 注意 注重 注目 長老 著名 珍惜 沈黙 定期 典型 動作 同情
 逃避 特色 特別 努力 人情 認真 忍耐 能力 把握 配合 排水 破壊 發見 發生
 花園 範圍 挽救 比較 富強 普通 部分 不便 分散 奮發 分布 分別 平均 閉塞
 変遷 辨別 辨報 便利 辦理 妨害 冒險 豊富 方便 保持 保存 本意 磨鍊 滿意
 密接 木材 模様 勇氣 優遇 遊歴 優劣 愉快 容易 用意 様子 用品 預知 預備
 利用 旅行 冷談 礼服

三、見出し語の比較と訳語の存廃

3.1 『蒙漢合璧五方元音』(1917年)との比較

抽出された見出し語の中国語がどれだけモンゴル語に翻訳されたことがあるのか、それを知るためにまず上記の見出し語 844 語を『蒙話報』の発行年代から最も近い時期に編纂された「漢蒙辞典」である『蒙漢合璧五方元音』¹⁰ と比較してみることにしたい。この辞書は古い中国語辞書の翻訳であるため、中国語の近代語彙を確認するうえで一つの目安になる。

『蒙話報』の見出し語である上記中国語の単語と『蒙漢合璧五方元音』の語彙を比較した結果、見出し語が一致するのは次の 21 語だけである。

産業 新鮮 習慣 討論 合併 合同 商量 研究 候補 土地 太平 普通 章程 期限
 責任 朋友 教授 報復 風俗 内閣 地方

さらに、この 21 の中国語語彙のモンゴル語訳が両者間でどれだけ一致しているかを調べてみた。その結果は次の表の通りである。

訳語が完全不一致の語彙 (10 語): 産業、新鮮、習慣、討論、合併、合同、商量、研究、候補、土地

訳語が部分一致する語彙 (3 語): 太平、普通、章程

訳語が完全一致する語彙 (8 語): 期限、責任、朋友、教授、報復、風俗、内閣、地方

『蒙話報』誌 (1908~10) と『蒙漢合璧五方元音』(1917) の語彙比較表

両者の語彙の一致率	語彙数	『蒙話報』誌の近代語彙との一致率
見出し語が一致する語彙	21	2.5%
訳語が完全不一致の語彙	10	1.2%
訳語が部分一致する語彙	3	0.4%
訳語が完全一致する語彙	8	0.9%

3.2 『蒙譯名辭選輯』(1942年)との比較

『蒙話報』誌に見られる中国語近代語彙のモンゴル語訳が1940年代までの段階で中国側のモンゴル語にどれほど使われていたのか、1942年に南京で印刷された『蒙譯名辭選輯』¹¹の中国語見出し語のモンゴル語訳との一致率を確認してみた。その結果、『蒙話報』誌の中国語見出し語と『蒙譯名辭選輯』の中国語見出し語の一致する語彙は328語で、その一致率は38.9%である。その中で両者のモンゴル語訳が一致する情況は具体的に次の通りである。

● 訳語が完全不一致の語彙 155語

医院 委員 意見 一帶 一律 印度洋 宇宙 營業 衛生 温帶 海岸 會議 開發 化学
科学 華僑 学生 科目 關係 干涉 寒帶 官吏 機關 氣球 企業 危險 基礎 技術
強權 協約 漁業 警察 繼承 形態 原始 憲法 原料 交易 公園 合格 工業 廣告
交際 公司 交涉 工場 工程 合同 公民 国民 護照 顧問 財源 作用 参考 産業
資格 事業 紙幣 自然 社会 車票 自由 習慣 宗教 主義 主權 主体 主任 準備
条件 消息 消滅 書記 職業 植物 植民地 進化 信教 心理 侵略 人類 世紀
生産 制度 政党 政府 声明 責任 説明 全国 全体 宣布 総理 組織 待遇 代表
逮捕 妥協 単位 団結 団体 地位 秩序 地歩 中世紀 地理 通告 通例 定期 帝国
哲学 天然 統計 動作 同志 同情 統治 動物 動物園 特別 納税 農民 博士 發行
發明 範圍 版圖 費用 標準 肥料 比例 風俗 文化 平均 平和 妨害 封建 報酬
法則 北冰洋 無限 無線 目錄 問題 預備 和平 理学 利息 留学生 旅行 理論
聯合 労働 論理

● 訳語は部分一致する語彙 71語

意義 意思 運輸 外交 改良 擴張 議員 規則 救済 居住 居民 軍隊 計劃 藝術
現行 検査 現象 公共 耕作 高等 參觀 事件 思想 執行 兒童 事變 資本 集会
手段 種類 商業 初等 人材 人種 生活 請求 生計 政策 政治 精神 政府 生命
造幣 全權 退職 太平 中央 調査 典型 電信 電報 独立 内閣 内容 農業 農産
比較 分散 分別 文明 分類 平民 編輯 法例 法令 民族 立憲 利用 領土 歴史
優等

● 訳語が完全一致する語彙 102語

愛国 運動 海軍 外国 海関 外務 家族 学校 合併 火力 監督 管理 議案 期限
貴族 基本 義務 教育 競争 銀行 軍事 訓練 經費 建設 原理 権力 交通 購買
公文 根本 戸口 国防 個人 国家 国会 国境 困窮 財産 財政 財力 参議 自衛
時代 自治 住所 手段 出版 章程 職務 処分 新聞 進歩 人民 人類 製造 政務
成立 勢力 世界 責任 設立 選舉 大学 大綱 大衆 大陸 知識 地方 中国 通商
程度 鉄道 統一 道德 土地 農業 能力 破壊 破産 万国 飛行 文学 文官 文職
編輯 辦理 貿易 報告 報復 方法 法律 保衛 保護 保持 保守 文字 民主 名譽
利益 利害 陸軍 理由

『蒙話報』誌の近代語彙の訳語を『蒙譯名辭選輯』の訳語と比較した結果、両者の訳語が完全一致する語彙は102語であるので、『蒙話報』誌に見られる中国語近代語彙のモンゴル語訳の存続率は、1940年代初期の段階で11.5%であると判断される。

『蒙話報』誌（1908～10）と『蒙譯名辭選輯』（1942）の語彙比較表

両者の語彙の一致率	語彙数	『蒙話報』誌の近代語彙との一致率
見出し語が一致する語彙	328	38.9%
訳語が完全不一致の語彙	155	18.4%
訳語が部分一致する語彙	71	8.4%
訳語が完全一致する語彙	102	11.5%

3.3 『漢蒙詞典』（1982年現在）との比較

『蒙話報』誌に見られる中国語近代語彙のモンゴル訳が1980年代現在、中国語側のモンゴル語にどれほど定着しているのか、1982年に内モンゴルで出版された『漢蒙詞典』¹²のモンゴル語訳を参照し、その一致率を判断することにした。『漢蒙詞典』の中国語の見出し語は177,000という膨大な量なので、『蒙話報』誌における中国語の見出し語との一致率も高い。そのため、ここでは3.1と3.2のように、訳語が完全不一致の語彙、訳語が部分一致の語彙、訳語が完全一致する語彙をそれぞれ具体的に掲載することはできない。また、弁別作業による結果についても、今後必要に応じてコンピュータ処理などの方法で、より正確な結果を出す余地がある。ここでは、『蒙話報』誌のモンゴル語訳近代語彙の1980年代現在における定着率を知る必要から、目安として次のデータを掲げる。「1980年代現在」になっているのは、1982年に出版された『漢蒙詞典』が、中国領内のモンゴル語使用地帯でもっとも一般性のある漢蒙辞典であるためである。

『蒙話報』誌の中国語近代語彙による見出し語と、現在中国語で使われている近代語彙の一致する単語は765語と判断され、その一致率は90.6%である。その中で両者のモンゴル語訳が一致する状況は具体的に次のようになっている。

『蒙話報』誌（1908～10）と『漢蒙詞典』（1982）の語彙比較表

両者の語彙の一致率	語彙数	『蒙話報』誌の近代語彙との一致率
見出し語が一致する語彙	765	90.6%
訳語が完全不一致の語彙	659	78.1%
訳語が部分一致する語彙	28	3.3%
訳語が完全一致する語彙	78	9.2%

『蒙話報』誌の近代語彙の訳語を『漢蒙詞典』の訳語と比較した結果、両者の訳語が完全一致する語彙は78語であるので、『蒙話報』誌における中国語近代語彙のモンゴル語訳の定着率は、1980年代現在は9.2%であると判断される。

ここで注目されることは、『蒙譯名辭選輯』（1942年）と『漢蒙詞典』（1982年現在）との比較において、前者はその見出し語と『蒙話報』誌の見出し語との一致率が38.9%で、後者の90.6%より51.7%も低いのに、訳語が完全一致する語彙の一致率が11.5%で、後者の9.2%より2.2%高いことで

ある。これは1940年代初期まで用いられていたモンゴル語翻訳語が現在はその多くが淘汰されていることを意味する。実際、1945年8月以降、内モンゴルではモンゴル人民共和国側のおびただしい新語が導入されたため、それまで内モンゴル側で使用されていた翻訳語が大量に淘汰された。この論点についてはこれまでの研究で述べてきた。

3.4 『蒙話報』誌モンゴル語近代語彙の1980年代現在における定着語の例

凡例: 火車 1 *γal terge* 1 雑誌 Aa 15-23
 1=訳語 1、 A=「清朝末期」、 a=『蒙話報』、 15=第15期、 23=頁数

モンゴル文字転写は、原文の綴り通りに行った。

海関	1 <i>dalai-yin boyumta</i>	1 雑誌 Aa 5-17
海軍	2 <i>dalai-yin čirig</i>	2 雑誌 Aa 22-64
外国	1 <i>γadaγadu ulus</i>	1 雑誌 Aa 1-25
外務部	1 <i>γadaγadu yabudal-un yamun</i>	1 雑誌 Aa 16-30
火車	1 <i>γal terge</i>	1 雑誌 Aa 15-23
	2 <i>γaltu terge</i>	2 雑誌 Aa 25-36
各国	1 <i>olan ulus</i>	1 雑誌 Aa 1-19
火力	1 <i>γal-un küčün</i>	1 雑誌 Aa 16-19
規則	1 <i>yosu dūrim</i>	1 雑誌 Aa 6-19
義務	1 <i>ǰirum</i>	1 雑誌 Aa 22-61
軍事	2 <i>čerig-ün yabudal</i>	2 雑誌 Aa 5-12
軍隊	2 <i>čerig anggi</i>	2 雑誌 Aa 19-16
経費	1 <i>ǰaruqu ǰarudal</i>	1 雑誌 Aa 4-9
刑律	1 <i>eregü qauli</i>	1 雑誌 Aa 23-7
購買	1 <i>qudaldun abqu</i>	1 雑誌 Aa 5-11
公文	1 <i>alban bičig</i>	1 雑誌 Aa 11-29
国家	1 <i>ulus</i>	1 雑誌 Aa 1-11
	2 <i>ulus ger</i>	2 雑誌 Aa 1-12
国会	1 <i>ulus-un qural</i>	1 雑誌 Aa 2-51
才能	1 <i>erdem čidal</i>	1 雑誌 Aa 16-17
自衛	1 <i>öberiyen qamaylaqu</i>	1 雑誌 Aa 20-21
時期	1 <i>čaγ quγučaγ-a</i>	1 雑誌 Aa 22-14
事件	1 <i>kereg yabudal</i>	1 雑誌 Aa 25-55
時刻	1 <i>čaγ möči</i>	1 雑誌 Aa 25-56
時代	3 <i>čaγ-un üy-e</i>	3 雑誌 Aa 23-14
集会	1 <i>quraǰu čuylaqu</i>	1 雑誌 Aa 25-55
真理	1 <i>ünen yosu</i>	1 雑誌 Aa 13-21
生活	1 <i>amidural</i>	1 雑誌 Aa 1-4
性質	5 <i>činar</i>	5 雑誌 Aa 12-16

勢力	3 sür kücün	3 雑誌 Aa 13-15
設立	1 bayiylulqu	1 雑誌 Aa 1-22
大学	1 yeke surɣaɣuli	1 雑誌 Aa 16-2
逮捕	1 bariqu	1 雑誌 Aa 19-28
大陸	1 yeke qayurai	1 雑誌 Aa 1-39
地形	1 ɣaɣar-un bayidal	1 雑誌 Aa 23-18
地圖	1 ɣaɣar-un jiruɣ-a	1 雑誌 Aa 1-32
鉄道	1 temür ĵam	1 雑誌 Aa 5-2
鐵路	1 temür ĵam	1 雑誌 Aa 15-23
飛艇	1 nisuqu onɣyuča	1 雑誌 Aa 25-36
貧民	1 ügeyigü arad	1 雑誌 Aa 6-39
風力	1 salkin-u kücün	1 雑誌 Aa 16-19
保護	3 batulan qamaɣlaqu	3 雑誌 Aa 21-35
利益	4 asiy tusa	4 雑誌 Aa 5-1
利害	1 asiy qour	1 雑誌 Aa 6-16

次回からは分野別語彙のモンゴル語訳語の検討や特定の語彙の個別的考察に入る。

注

- 1 馬西尼著 黄河清譯『現代漢語詞彙的形成 ——十九世紀漢語外来詞研究——』
(Federico Masini: *The Formation of Modern Chinese Lexicon and its Evolution toward a National Language: The Period from 1840 to 1898*) 漢語大詞典出版社 1997年 156頁
- 2 周起予編『新名詞訓纂』(廣文書局 1979年)には、明治生まれの日本語として知られる「共和」「文明」「維新」を筆頭に、「政之属第一」(訓纂一)に216語、「学之属第二」(訓纂二)に97語、「語之属第三」(訓纂三)に247語、「物之属第四」(訓纂四)に55語の、合計615語の二音節からなる新語が掲載されている。Federico Masiniによれば、『漢語外来詞詞典』(注7)と中国で出版されたその他の多くの外来語研究の著書では、日本語からの借用語の範囲を極力狭め、同時に、それらの語彙が日本に流行する以前から使われていたという典拠を漢籍から探すのに必死だった。その目的のために編纂された早期の辞典が周商夫(周起予)のこの『新名詞訓纂』(初版は1918年)であるという。前掲書『現代漢語詞彙的形成 ——十九世紀漢語外来詞研究——』158-159頁。
- 3 清朝末期までの主なモンゴル語辞書や語彙集としては次の諸辞書や書籍をあげることができる。
『方言類釋』1778年(弘文閣 韓国 光明市 1985年)
『蒙語類解』18世紀(ソウル大学校古典刊行会 1971年)
『蒙語老乞大』18世紀(西江大学校人文科学研究所 1983年)
J. E. Kowalewski: *Dictionnaire mongol-russe-français*. Kasan. 1844.
『蒙文總彙』(*Mongɣul ügen-ü bügüde quraqaysan bičig*) (一、二) 光緒辛卯(1891)年
『欽定蒙文彙書』(*Mongɣul-un üsüg-ün quriyaysan bičig*) (一、二) 光緒十七(1891)年
『御製五體清文鑑』(*Qayan-u bičigsen tabun jüil-ün üsüg-iyer qabsuruɣsan manju ügen-ü toli bičig*) (一、二、三) 18世紀(清朝乾隆年間) 民族出版社 1957年 北京
Temgetü: *Mongɣul utq-a-yin jüil qubiyaysan toli bičig* (蒙文書社編『蒙文分類辞典』) 1926年

北京（民族出版社 1956年）

この辞書は清朝時代に編纂された上掲諸辞書などを参照してその語彙を分類し、再編したものである。

- 4 注3参照
- 5 注2参照
- 6 前掲書『現代漢語詞彙的形成——十九世紀漢語外来詞研究——』273頁
- 7 中国語と日本語の主な語彙資料
高名凱 劉正埃著『現代漢語外来詞研究』文字改革出版社 1958年
北京師範学院中文系漢語教研組編著『五四以来漢語書面語言的變遷和發展』商務印書館 1959年
劉正埃 高名凱 麦永乾 史有為編『漢語外来詞詞典』上海辞書出版社 1984年
山腰敏寛編『清末民初文書読解事典』汲古書院 1989年
漢語大詞典編輯委員会 漢語大詞典編纂處編『漢語大詞典』漢語大詞典出版社 1997年
許少峰主編『近代漢語詞典』團結出版社 1997年
香港中国語語文学会編『近現代漢語新詞源詞典』漢語大詞典出版社 2001年
日本大辞典刊行会編『日本国語大辞典』小学館 1974年
惣郷正明 飛田良文編『明治のことは辞典』東京堂出版 1986年
国立国語研究所編『明治初期の新聞の用語』秀英出版 1964年
- 8 『蒙話報』誌と発行年代に近いモンゴル語の語彙資料として、1920年代までの次の辞典類がある。
黄鯤等編『蒙古大辞典』(*Mongγul üge surqu bičig*) 一、二 蒙学社 北京 1912年
喀喇沁右旗貝子海山編譯『蒙漢合璧五方元音』(*Qaračin barayun qošiγun-u bayisa qayıšan jokiyan orčiγulbai: Mongγul kitad bičig-iyer qabsuruγsan tabun jüg-ün aquu ayalalγu bičig*) 1917年
R. Bimbaevi: *Russko-mongoliskii slovari*. Kharbini. 1913.
————— *Kratkii russko-mongoliskii slovari*. Kharbini. 1914.
————— *Russko-mongoliskii slovari*. Irkutsk. 1916.
鈴江満太郎編『蒙古支那日本対照実用語字彙』1916年
- 9 沈国威著『近代日中語彙交流史——新漢語の生成と受容——』風間書院 1994年 355-382頁
- 10 前掲『蒙漢合璧五方元音』(*Mongγul kitad bičig-iyer qabsuruγsan tabun jüg-ün aquu ayalalγu bičig*) は中国語辞典『五方元音』(1880年)の翻訳であるが、編訳の段階で若干の語彙が追加されている。
- 11 中央組織部邊區語文編譯委員会『蒙譯名辭選輯』(*Mongγulčilan orčiγuluγsan ner-e üges-i songγun quriγaysan bičig*) 南京 1942年
中国側で初めて公的機関により審議された「モンゴル語近代語彙集」。その見出し語は約一万条で、一般語よりも専門術語のほうが多い。
- 12 内蒙古自治区社会科学院蒙古語言文字研究所編『漢蒙詞典』(*Kitad mongγul toli*) 増訂本 内蒙古人民出版社 1982年

参考文献

- 高名凱 劉正埃著 鳥井克之訳『現代中国語における外来語研究』関西大学東西学術研究所資料集刊16 関西大学出版部 1988年
- 沈国威編著『『新爾雅』とその語彙——研究・索引・影印本付——』白帝社 1995年
- 荒川清秀著『近代日中学術用語の形成と伝播——地理学用語を中心に——』白帝社 1999年
- 沈国威編著『植学啓原と植物学の語彙——近代日中植物学用語の形成と交流——』関西大学出版部 2000年
- 朱京偉著『近代日中新語の創出と交流——人文科学と自然科学の専門語を中心に——』白帝社 2003年
- 高野繁男著『近代漢語の研究——日本語の造語法・訳語法——』明治書院 2004年

鈴木修次著『日本漢語と中国——漢字文化圏の近代化』中央公論社 昭和五六年
鈴木修次著『文明のことば』文化評論出版社 昭和五六年
佐藤喜代治編『講座日本語の語彙 6 近代の語彙』明治書院 昭和五七年
柳父章著『翻訳語成立事情』岩波書店 昭和五七年
佐藤亨著『近世語彙の歴史的研究』桜楓社 昭和五五年
—— 著『近世語彙の研究』桜楓社 昭和五八年
—— 著『幕末明治初期語彙の研究』桜楓社 昭和六一年
広田栄太郎著『近代訳語考』東京堂出版 昭和四四年
森岡健次編著『近代語の成立——明治期語彙編——』明治書院 昭和四四年
斎藤毅著『明治のことば』講談社 昭和五二年
鈴木修次著『日本漢語と中国——漢字文化圏の近代化』中公新書 1981年
安藤彦太郎著『中国語と近代日本』岩波新書 1988年
飛田良文著『明治生まれの日本語』淡交社 2002年

(フフバートル 総合教育センター)